かんだの歴史

軌跡

概要版
DIGEST

苅田町合併50周年記念誌

Kanda Town 50th Anniversary

ゆめ、輝いて50年、未来へはばたく苅田町

▲合併50周年記念事業シンボルマーク（西日本工業大学情報デザイン科1年　富澤則幸氏の作品）

▲合併50周年記念事業キャッチコピー（札幌市小寺光雄氏の作品）

The history of Kanda

発刊のごあいさつ

苅田町長
伊塚　工
Izuka Takumi

1955（昭和30）年1月1日に白川村、小波瀬村、旧苅田町が合併して新しい苅田町が誕生しました。それから半世紀、2005（平成17）年1月1日に合併50周年を迎えました。

合併後の苅田町は工業港湾都市として大きく発展してきました。苅田臨海工業用地には九州電力をはじめ多くの日本有数の企業が進出し、1968（昭和43）年には苅田港が国際貿易港になりました。1975（昭和50）年には小波瀬臨海工業用地は日産自動車九州工場が進出、世界有数の自動車工場に成長しました。

一方、白川地区は青龍窟や等覚寺松会などの豊かな自然と文化を継承してきました。

50周年を迎えた苅田町は、2006年3月の新北九州空港開港と東九州自動車道の開通を控え、「陸・海・空の交通拠点都市」という新しいステージへと進もうとしています。2004（平成16）年12月には新たにトヨタ自動車の進出も決まり、限りない飛躍が期待されています。

こうした大きな可能性を活かして、自然・文化、福祉・教育・環境、産業のバランスのとれた真に豊かな町を築くため、住民参画のもと、個性のある自立したまちづくりを進めていかなければなりません。そのためには、先人が歩んできた町の歴史を共有していくことが大切だと考えます。

そこで、50周年を記念して、記念誌「軌跡― かんだの歴史」を発行します。本編（2005年3月発行予定）に先立って、今回「概要（ダイジェスト）版」を作成しました。ぜひ、ご一読いただき、町の歴史ロマンに思いを馳せ、町特有の個性を発見していただきたいと思います。

平尾台と青龍窟（北九州国定公園）

平尾台は小倉南区を中心に行橋市・京都郡にかけて広がる主に石灰岩台地からなる。広さは北東から南西方向に長さ約11km・幅約2.5km。カルスト地形といわれる石灰岩特有の地形が展開し、台地の草原には固有の植生がみられる。カルスト地形には石灰岩の差別的浸食で形成された丸みを帯びた岩塊群を特徴とするカレンフェルトがよく発達する。台地東側には国指定天然記念物の青龍窟が開口している。台地上にはドリーネやウバーレが各所に見られる。当台地の石灰岩は2.2億年以上前の古生代末の海で形成された珊瑚礁に起源を持つと推測される。

▲周防灘の夜明け（写真提供－本田茂氏）

▲洞口ホール内部と水柱の光（写真提供－本田茂氏）

▲石柱状鍾乳石群（写真提供－青龍クラブ）

▲ベーコン状鍾乳石（写真提供－青龍クラブ）

石塚山古墳（国指定史跡）

九州最大・最古の定型化した前方後円墳で、全長は推定約130m。東側の後円部は三段、西側の前方部が二段築造で、墳丘に人頭大の葺石がある。主体部は後円部の中央にあって、主軸に平行して竪穴式石槨がある。主体部は1796（寛政8）年に開口し、舶載の三角縁神獣鏡（国指定重要文化財）などが出土し、現在宇原神社に保管されている。1987（昭和62）年の発掘調査では装身具（勾玉・管玉）、武具（小札革綴甲・靫）、武器（鉄鏃）、工具（鉄斧）などが出土している。

▲石塚山古墳

▲三角縁獣文帯「天王日月」銘三神三獣鏡

▲三角縁獣文帯「天王日月」銘三神三獣鏡

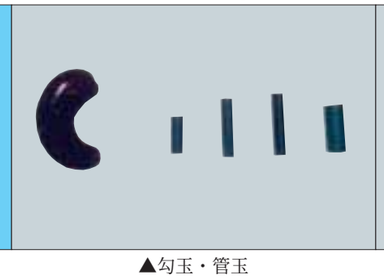
▲三角縁獣文帯「日日日全」銘三神三獣鏡

▲三角縁獣文帯「天王・日月」銘四神四獣

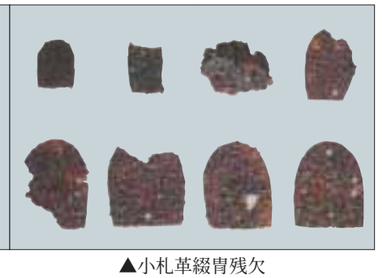
▲三角縁獣文帯「天王日月」銘四神四獣鏡

▲三角縁「吾作」銘四神四獣鏡

▲三角縁獣文帯「日・月」銘八神四獣鏡



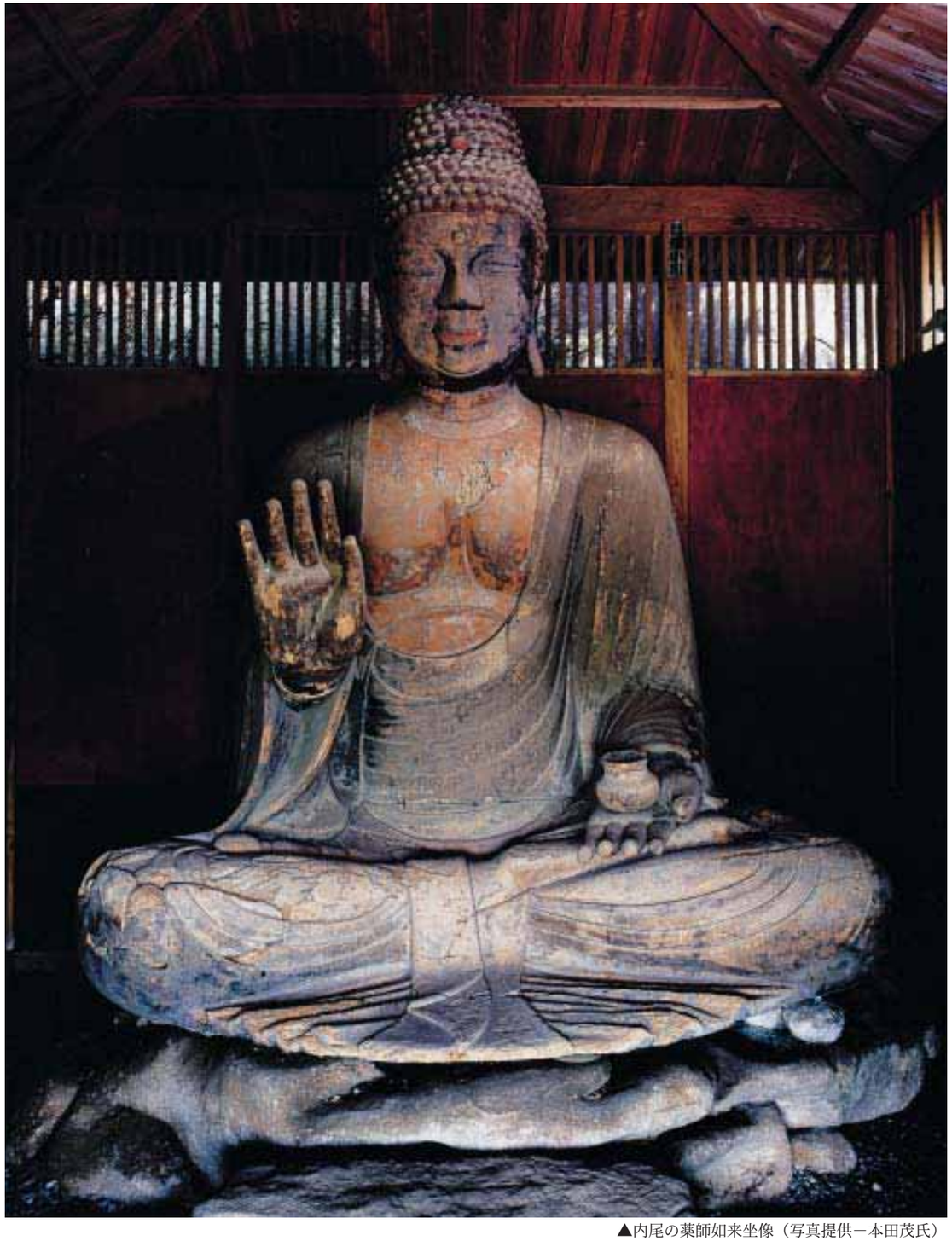
▲勾玉・管玉



▲小札革綴冑残欠

内尾の薬師如来坐像（県指定彫刻）

平安時代のことを述べた『本朝世紀』999（長保元）年3月7日の条に、弥勒寺講師の長祐が998（長徳4）年9月に京都郡賀田郷（刈田郷か）で雨米が降る奇瑞が発生したことを、宇原庄において蒭野庄（行橋市草野庄）前検校早部（日下部）信理から聞き及んでいる。このことなどから、宇原庄はすでに中核的位置を占めていたと考えられる。宇原庄内尾山相圓寺（殿川ダム北岸）の鍾乳洞窟に安置されたのが丈六仏と称される薬師如来坐像である。丈六仏とは元来、仏の大きさである。材は檜の寄木作りで、その形式から平安時代末の12世紀前半代頃に作造されたと推察される。



▲内尾の薬師如来坐像（写真提供－本田茂氏）

等覚寺松会

（国指定重要無形民俗文化財）

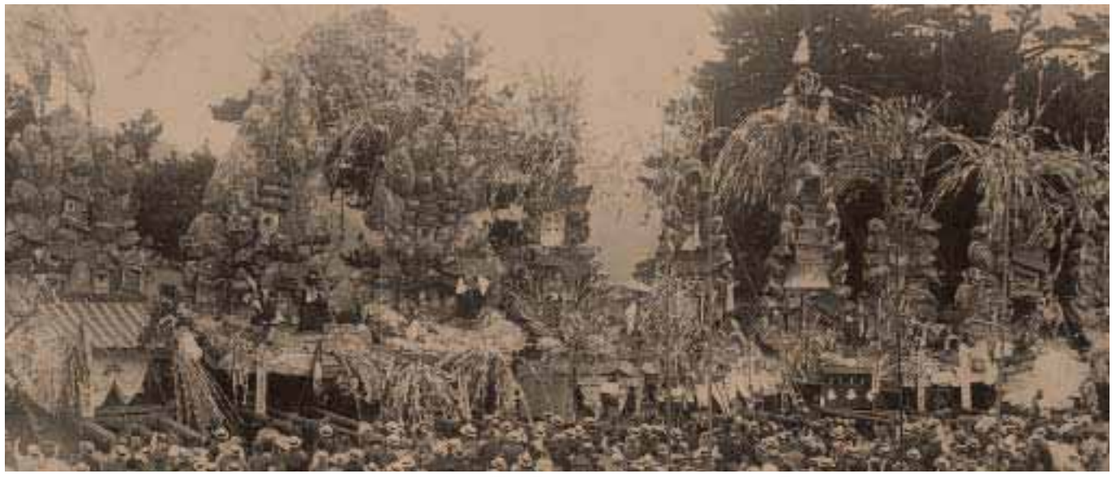
豊前修験道固有の祭りで、祭り当日は御座から神輿行列→獅子舞→種蒔を行う。御旅所（松庭）で前半の色衆（田植準備→おとんぼし→田植→孕み女）、後半の刀衆（鉞舞→長刀舞）の所作が終ると楽打を行う。最後のクライマックスは施主の幣切りである。当祭は柱松をシンボルとする国家太平・五穀豊穣を祈る春の予祝神事である。

宇原神社神幸祭

（県指定無形文化財）

資料によれば室町時代から続く宇原神社の祭りで、現在は同社の秋祭りとなっている。1597（慶長2）年から鉾山が加わる。祭りの前半に、鉦卸し→連歌奉納→汐かきを行う。祭りの中心は、神幸祭当日、浮殿の地（神事場）に氏子14区の思い思いの趣向をこらした鉾山が勢揃いし、神輿が帰途につく際に各々の鉾山がぶつかり競い合う。

等覚寺の松会行事（写真提供－本田茂氏）



▲神幸祭（大正時代）（写真提供－作本書店）　▼神幸祭（現在）

工業と港湾の始まり

工業港湾都市・かんだの始まりは大正時代に遡る。1918（大正7）年、豊国セメント（現三菱マテリアル）が設立され、2年後に操業を開始した。1939（昭和14）年には、当時の内務省直轄工事として苅田港築港が始まり、県営臨海工業地帯造成工事も1942（昭和17）年から行われた。

▲1920（大正9）年豊国セメント創業当初の工場遠景（向山麓付近から撮影）
手前松林付近に現在社宅がある（写真提供ー三菱マテリアル㈱）

下関要塞地帯

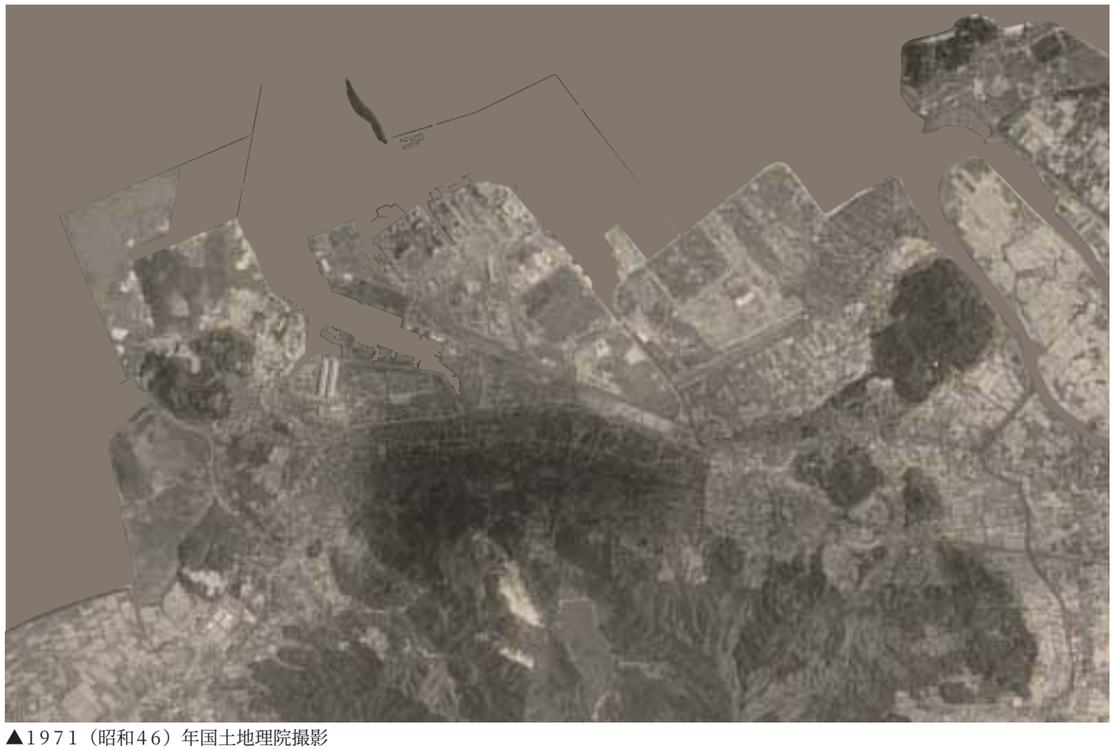
苅田町域の一部は、1899（明治32）年制定の要塞地帯法により、下関要塞地帯に組み込まれ、写真撮影が制限された。下の写真は昭和10年代に撮影された神ノ島であるが、要塞司令部の検閲により地形のわかる部分が消されている。

▲1939（昭和14）年頃ポンプ浚渫船「東谷丸」による埋立（苅田港より南方を望む）
船の後方二先山、右井場川尻（写真提供ー松田惠氏）

▲下関要塞司令部の検閲を受けた神ノ島の写真（写真提供ー松田惠氏）

臨海部埋立

▲1947（昭和22）年国土地理院撮影



▲1971（昭和46）年国土地理院撮影

1　原始～古墳時代

▲富久遺跡出土後期旧石器

▲葛川遺跡出土弥生前期土器群

▲御所山古墳全景

▲番塚古墳主体部（羨道から見た石室内部）

氷河時代、オオツノシカなどの大形哺乳動物を追って大陸から移動した人々の痕跡が後期旧石器時代に属す狩猟道具の三稜尖頭器である。

採取経済社会になると、人々は石器のほかに装飾を施した土器を多用する。土器は棺としても使用し、その中に火葬した人骨が残るものもある。この時代の文化はアニミズムにも似たもので、おおむね東方の影響を受けた。

稲作農耕文化が韓半島からいち早く伝播した北部九州では、弥生早期～前期にかけて環壕集落とよばれる集落が形成された。そのなかには後のクニとよばれる基礎となるものもあった。中期になると北部九州には、『後漢書東夷伝』に見えるクニグニが林立し、一種の部族連合を形成した。それらのクニグニでは青銅器（威信財）や石器などの流通に象徴されるようなネットワーク社会が実現した。その代表が伊都国と奴国を中核とした初期筑紫政権とも言われ、須久式土器文化圏を形成した。それらのクニグニで製作された青銅製の威信財や文化は豊前地方に大きな影響を与え、更に海を越えて広がった。

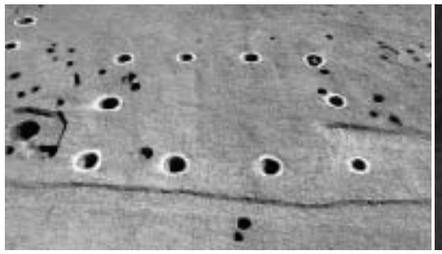
前代に萌芽した厚葬の風習は、古墳時代になるとハード（前方後円墳）とソフト（葬送儀礼）の両面を併せた姿として完成した。ハードとソフトは、ヤマト政権から認証された地方豪族たちの墳墓にも採用される。墳墓の主体部で実施された葬送儀礼に使用されたのが三角縁神獣鏡を代表とする副葬品である。三角縁神獣鏡は『魏志倭人伝』に記された卑弥呼が魏の皇帝から下賜された「銅鏡百枚」と考えられ、同笵鏡の分有などからヤマト政権の勢力拡張に伴う政治的意図が読み取れる。

しかし、ヤマト政権拡張政策に抵抗する勢力も存在した。九州における最大の抵抗勢力は筑紫国造磐井君で、これを第２次筑紫政権の時代ともいう。磐井の乱を制したヤマト政権は、北部豊前に屯倉を設置し、そのひとつが京都郡内の肝等に設置された。

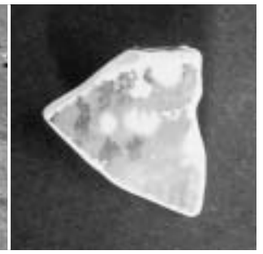
古墳時代後期になると家族墓としての機能を持つ横穴式石室が隆盛を極め、終末期になると古墳の石材に巨石を使用するようになる。

該当する町内の文化財…富久遺跡（三陵尖器）、山口遺跡（押形文土器）・浄土院遺跡出土（鐘崎式土器～西平式土器）、葛川遺跡・法正寺木ノ坪遺跡、山口遺跡・石塚山古墳・御所山古墳・番塚古墳・雨窪古墳など。

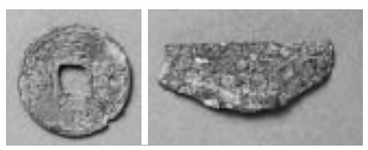
2　奈良～平安時代



▲1-C地区７号掘立柱建物跡



▲谷遺跡出土唐三彩陶枕残欠



※左は和銅開珎に次ぐ国産貨幣とされる「萬年通宝」、右は銅製碗残欠

※釉陶器（小型壷残欠）

▲雨窪遺跡群出土品（写真提供－福岡県教育庁文化課）

▲阿弥陀如来坐像
（専光寺蔵写真提供－原口信行氏）

▲等覚寺出土銅製経筒

▲地蔵菩薩立像
（平泉寺蔵）

律令国家が成立すると畿内を中心としたネットワークシステム（道路網と駅）と地方官僚による行政システムが完成した。西海道では大宰府を中心としたシステムが構築される。地方の行政は国府で行い、学問の府が国分寺であった。そして、郡内には役所として郡衙が置かれた。それらを結ぶ官路には30里ごとに駅が設置された。町内には豊前国の駅のひとつとして『延喜式』に「刈田駅馬五疋」と記されている。

740（天平12）年、藤原広嗣の乱が起こる。『続日本紀』は主戦場となった企救郡の板櫃鎮に隣接した京都郡では9月24日鎮長小長谷常人が殺害され、同25日大領楮田勢麻呂が兵五百騎と供に官軍へ投降したと伝える。豊前国3鎮のひとつとされる京都鎮の比定地としては、小波瀬川中流域の岡崎丘稜が有力視されている。

わが国で初めて仏と神々との習合をなしとげたのが宇佐の地に鎮座する八幡神で、その後八幡大菩薩と称した。歴史に登場するのは隼人の乱や広嗣の乱を契機としてであるが、歴史の表舞台に登場するのは都東大寺の毘盧遮那仏建立の時である。託宣で要求に答えた八幡神は749（天平勝宝元）年に聖武太上天皇ら国内外要人が見まもる中、大仏を礼拝するため神輿に乗って入京。この国家的イベントへの貢献で八幡神は国家神へのプレスステージを一気に掛け登り、その功績によって一品の位や多くの封戸を賜り、領域が九州一円に拡大した。『本朝世紀』には宇佐弥勒寺領宇原庄と平井寺の記述が見える。前者の弥勒寺領宇原庄には、後の資料に見える壇林寺～西恩寺と称される大寺院があった。その寺院の本尊が現在内尾山相圓寺に安置される丈六仏薬師如来坐像と推察される。後者の平井寺は、後世の資料によれば七堂伽藍の大寺院で、往時を偲ぶ仏達が現在もわずかに残されている。

平安時代後半になると、豊前国の山岳寺院の多くは天台宗となる。英彦山六峰の一つである等覚寺は、ふもとの明護院と称す寺院とセットの関係にあった。後の資料によれば、往時の明護院は七堂伽藍の大寺院で、その阿弥陀堂の本尊が現在は専光寺に安置されている。そして末法思想の象徴である経塚は山岳寺院等覚寺で造られ、ここから経筒３本が出土している。

該当する史跡等…雨窪遺跡群、谷遺跡（唐三彩他）、内尾の薬師如来坐像、平泉寺所蔵地蔵菩薩等、専光寺所蔵阿弥陀如来坐像、等覚寺出土経筒など。

3　鎌倉～室町時代

▲平清経塚の石塔群

▲足利尊氏寄進状（写真提供－北九州市立自然史・歴史博物館）

▲豊前國建久圖田帳宇佐宮弥勒寺領注文拜関頭下知状案

▲松山城跡（上空より主郭と２の郭）

中世の豊前国は目まぐるしく支配者が入れ代わり、そのつど合戦が繰り返され、各地は灰燼に帰したと文献は伝える。

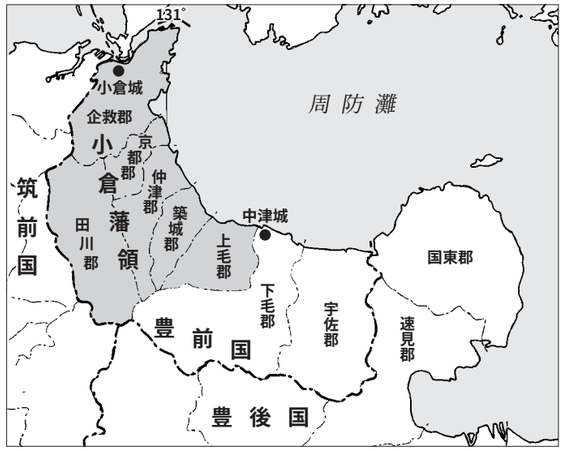
平家を滅ぼした源頼朝の宇佐八幡宮に対する処遇は寛容であったが、平家与党の豊前国の板井氏の領地には関東御家人宇都宮氏が入った。この時代の庄園の記録『建久図田帳』によると豊前国内には弥勒寺領と宇佐宮領があり、前者の弥勒寺領は加納得善名として宇原庄十五丁・苅田二郎丸六十丁・荒津四郎丸四十丁、宇佐宮領としては稲光六十町と記されている。

蒙古襲来以後鎌倉幕府は、その威厳が失墜する。その機に乗じた後醍醐天皇は一時実権を掌握したかに見えたが、北朝と南朝に分裂した。北朝の頭として九州に落ちていた足利尊氏は、少弐氏・大友氏らに迎えられ、上洛の機会を伺っていた。それを決定的にしたのが筑前国多々良浜の合戦である。この戦いで北方の勝利に貢献したのが少弐氏の根本被官饗庭氏であったと『梅松論』に記されている。その後、饗庭氏は肥後国・筑前国・豊前国の守護代を勤めて苅田庄に入った。ここで饗庭氏は土豪神田氏らを組織化し、宇治川の合戦で神田氏らが活躍したという。記録によれば、神田氏は松山城の城代も勤めたと伝える。尊氏は上洛に際して、味方した者らに各地の庄園を寄進している。苅田庄光国保を門司甲宗八幡神社に、堅島庄を大宰府安楽寺に寄進した。

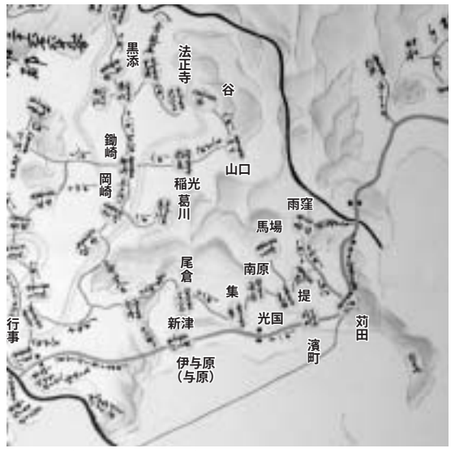
戦国時代、周防の雄大内氏は九州に進出して豊前国の守護も兼ねた。豊前一の要害山城と称された松山城の城代は、同氏家臣の杉氏が勤めた。その一方で、豊後国を根拠とした大友氏と大内氏は豊前国で覇権を競うことになる。両者の間では度々合戦が繰り返され、その中で熾烈を極めたのが1398（応永5）年頃とされる神田潟の合戦である。この戦では大友方の僧兵らも参戦したが敗北し、そのため多くの寺社が灰燼に帰した。周防の大内氏が毛利氏に滅ぼされると、大友氏が豊前国に進出して支配した。豊臣秀吉が九州平定に進出すると戦国の動乱に終止符が打たれる。そして黒田氏が入部し、中世以来の仲津郡の城井に居を構え、鎌倉時代以降京都郡内に影響を及ぼし続けた宇都宮氏もついに滅亡した。

該当する史跡等…平清経塚、松山城跡、等覚寺など。

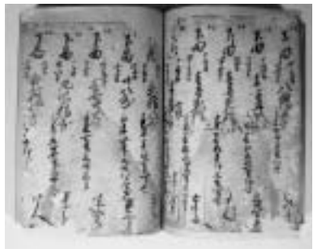
4　江戸時代



▲小倉（小笠原）藩域図



▲江戸時代の地図（正保絵図）



▲1601（慶長6）年の尾倉村検地水帳

▲江戸後期の法正寺村等の庄屋日記

▶郡境標柱（左）と里程標（右）

関ヶ原の戦いの後、京都郡ら6郡を領していた黒田長政は筑前に転封となり、代わって豊前国一国は豊後国の一部とともに、細川忠興に与えられた。

細川氏は入部後、検地を行い、表高30万石に対し、約39万９千石（内高）を検出した。また、各郡の戸別調査を実施し、1622（元和8）年、「人畜改帳」を作成した。さらに、農村支配のため、郡と村の間に「手永」という独特の行政単位を設定し、統括者として惣庄屋を置いた。人畜改帳によると、京都郡には堅嶋（片島）、稲光、雨窪、岩熊（現勝山町）に惣庄屋がいる。

細川氏は1632（寛永9）年に肥後に移り、明石から、徳川家と縁戚関係にある小笠原忠真が入部、京都郡ら5郡に上毛郡の大半を加えた小倉藩15万石（内高約19万8千石）の領主となった。

小笠原氏も手永制度を踏襲した。苅田町域の大半は新津手永となり、鋤崎・黒添・法正寺・谷・山口各村は延永手永に属すようになった。

藩は農村支配のため、各郡に郡を統轄する筋奉行や代官、山奉行を置き、各手永には大庄屋、子供役、手代、各村に庄屋、方頭、組頭を置いた。大庄屋と子供役は農民だが苗字帯刀が許され、在任中は手永名を苗字として名乗った。

江戸時代には、多くの天災にみまわれ、農村は疲弊したが、特に1732（享保17）年の大飢饉では、藩全体で約4万人、苅田町域で約2300人が餓死したといわれている。

黒船が来航した翌年の1854（嘉永7）に家老となった島村志津摩は様々な改革（安政の改革）を断行した。「小倉織」の増産にも取り組み、新津村の「たね」という女性が糸引きの指導者として活躍したことが記録に残っている。

小倉藩は関門海峡を隔てて長州藩と対峙していることから、長州征討の最前線に立たされたが、幕府軍の崩壊により孤立、1866（慶応２）年８月１日、小倉城に自ら火を掛け、香春へと落ちて行った。同じ日、苅田から百姓一揆の火の手があがり、大庄屋宅などを打ち壊してまわった。一揆は築城郡にまで広がったが、数日で鎮圧された。

城を捨てた小倉軍は金辺峠と京都郡境の狸山に拠って抵抗した。狸山方面は小宮民部の指揮により、雨窪に本陣を置き、長州奇兵隊らと対峙した。一時は苅田村、浜町村まで攻め込まれ、民家が焼かれたが、その後は一進一退の攻防が続き、翌年１月に和議が成立、企救郡を手放した小倉藩は香春藩となった。

5　明治・大正

▲大正時代の塩尻法による製塩作業風景
（写真提供－山内公二氏）

▲塩務局小波瀬出張所
（写真提供－山内公二氏）

▼豊国セメント創立時の記念写真
（写真提供－三菱マテリアル（株））

▼操業開始当時の豊国セメント工場
（写真提供－三菱マテリアル（株））

香春藩は藩庁を豊津に移し、1870（明治３）年１月より「豊津藩」と称した。1871（明治４）年７月の廃藩置県により、豊津県となり、11月には中津県、企救郡（日田県管轄）らと合併して小倉県となり、さらに、1876（明治９）年には福岡県と合併して現在の福岡県となった。

1871（明治４）年から行政区画は区制となったが、1878（明治11）年には郡と町村制となり、郡に郡長、町村に戸長（のち、町村長）が置かれた。

1889（明治22）年４月には、明治の大合併により、「苅田村」（雨窪・松山・苅田・提・光国・浜町・馬場・南原・集・尾倉の10村が合併）「小波瀬村」（与原・新津・下片島・上片島・岡崎・下新津・二崎７村が合併）「白川村」（稲光・葛川・鋤崎・黒添・法正寺・谷・山口７村が合併）が誕生した。「小波瀬」「白川」はそれぞれ、区域内を流れる川の名前による。また、1896（明治29）年には京都郡と仲津郡が合併し、現在の「京都郡」となった。

1895（明治22）年４月、小倉～行事間に鉄道が開通し、苅田駅が誕生した。

1905（明治38）年４月、小波瀬村与原に熊本塩務局（のち福岡専売支局）小波瀬出張所が設置された。苅田町域では、幕末から、海岸に堤防を築き、入浜式塩田をつくる新開（干拓）事業が進み、明治30年代には、苅田村、小波瀬村の海岸線は塩田で埋め尽くされ、有数の製塩地帯となっていた。1911（明治44）年には小波瀬村が4115ｔ、苅田村が3195ｔを生産し、福岡県の生産高の70％を占めるまでになった。一方で、「塩尻法」（鹹砂貯蔵法）という古代からの伝統的製塩法が残っていた。

大正時代になると、海岸近くの山に内包される石灰石が注目を浴びた。1916（大正５）年に、浅野セメント㈱（門司工場）の苅田採掘場が、1918（大正７）年には豊国セメント㈱の工場が操業を開始し、工業都市のスタートを切った。

1922（大正11）年には、鉄道の専用線が豊国セメント工場まで乗り入れ、輸送力が飛躍的に拡大した。

豊国セメントの操業により、苅田村の人口が急増し、1924（大正13）年、町制が施行され、苅田町となった。

白川村には1923（大正12）年、水力発電所が完成、村内に配電した。

6　昭和（昭和29年まで）

▲苅田港築港起工式での基石沈奠の瞬間と基石（左上）
1939（昭和14）年撮影（写真提供－松田惠氏）

▲苅田港築港のための護岸工事1937（昭和12）年撮影
（写真提供－松田惠氏）

◀港湾工事作業風景（写真提供－松田惠氏）

▼ポンプ浚渫土の運搬風景
1939（昭和14）年頃撮影（写真提供－松田惠氏）

1929（昭和4）年から塩業整備が行われ、小波瀬村塩田が廃止された。しかし苅田町塩田は福岡県で唯一生き残り、一部は戦後まで続いた。

1934（昭和9）年には、日本曹達㈱の子会社である九州曹達㈱が進出してきた。日本曹達は中野友礼率いる新興財閥・日曹コンツェルンの主力企業であった。工場を豊国セメント工場の隣接地に建設し、1936（昭和11）年からソーダ灰の製造を開始した。1941（昭和16）年に一旦閉鎖されたが、1943（昭和18）年には、軍需工場として復活し、航空燃料の添加剤などを製造した。この工場には、1944（昭和19）年、旧制苅田中学などから約1500人の学徒動員があった。

豊国セメント、九州曹達は原料・製品の輸送が鉄道に限られていたため、港湾の整備が大きな課題となり、苅田港築港の運動を始めたが頓挫した。しかし、苅田港築港は国策というかたちで実現する。1939（昭和14）年、内務省直轄工事として苅田港築港が始まった。若松港を補完する筑豊炭田の積み出しを主目的とする港湾計画であった。

築港に合わせて、1941（昭和16）年に苅田地区土地区画整理事業、1942（昭和17）年には苅田臨海工業地帯造成事業が始まった。港を中心とした軍需工業都市が計画されたのである。

しかし、これらの計画は戦局の悪化と1942（昭和17）年の周防灘台風による被害が重なり大幅に遅れた。1944（昭和19）年、桟橋と岸壁の一部がようやく完成し、石炭の積み出しが始まったが、翌年８月の終戦とともに瓦解した。

港湾工事は1948（昭和23）年から再開、1951（昭和26）年１月に重要港湾、8月に準特定重要港湾に指定された。

1947（昭和22）年、六・三制に基づき苅田町に苅田中学が創立された。一方、小波瀬村は行橋町、白川村は延永・椿市村と共同で中学を設置した。

1948（昭和23）年、自治体警察として苅田警察署が発足し、1953（昭和28）年まで続いた。

1953（昭和28）年の町村合併促進法施行により、昭和の大合併が進み、京都郡でも様々な組み合わせが模索された。当初は、苅田町は単独、小波瀬村は行橋町などと、白川村は椿市村と合併する案だったが、最終的に1955（昭和30）年１月１日、苅田町、小波瀬村、白川村が合併し、新しい「苅田町」が誕生した。

7　新生・苅田町50年史

◀日産自動車調印式（『福岡県戦後50年のあゆみ』福岡県戦後50年福岡県行政史研究会編より）

◀1971(昭和46）年国道10号線を横切る豊国セメントの引込線

▲1955（昭和30）年合併苅田町祝賀風景（写真提供ー松田惠氏）

▲1959（昭和34）年当時の九州電力（株）苅田発電所

▲1978（昭和53）年かんだ港まつり復活開催

▲町立図書館

▲総合保健福祉センター（パンジープラザ）

▲苅田港南港と日産自動車㈱九州工場

▲苅田港本港と工場群

1955(昭和30)年1月1日、苅田町・小波瀬村・白川村の1町2村が対等合併を行った。新町名は準特別重要港湾として著名な苅田港を有し、九州電力㈱の発電所が建設中であることなどを考慮した上で、苅田(かんだ)町とし、新町役場は苅田港及び臨海工業地帯が新町発展の推進力となることから将来の都心となる旧苅田町に設置することになった。しかし、小波瀬村の一部の地域で分町騒動が起こり、その解決に3年余りの歳月を要した。

昭和**30**年代は苅田町の礎を築いた時代で、1956(昭和31)年に九州電力苅田発電所1号機が完成し、その後の増設とともに1963(昭和38)年に完成した西日本共同火力㈱新苅田発電所の送電開始によって、苅田町は日本一の発電センターとなった。また、1964(昭和39)年、戦前からの県営3大事業の一つであった苅田臨海工業用地1号埋立地が完成し、そこに麻生産業㈱と宇部興産㈱が相次いで進出、既存の豊国セメント㈱と合わせて全国の10%余りのセメントを生産、セメントの町としても知られるようになった。これらの火力発電所やセメント工場の燃料はすべて石炭で、苅田港が筑豊炭田の積出港として整備出発したことに由来する。すでに1958(昭和33)年ごろから我が国の燃料事情は石油が石炭にとって変わっていたが、九州においては産炭地域という特殊事情もあって石油への転換は他の地域より遅れていた。

昭和**40**年代には苅田工業用水殿川ダムの完成(1966)、国鉄日豊本線の複線化・電化(1965・66)などのインフラ面の整備のほか、港湾面では1968(昭和43)年苅田港が国際貿易港に昇格、翌年には木材輸入特定港、出入国港に指定されるなど、工業港への転換を進め、町自体も名実ともに西瀬戸臨海工業都市の中核をなすものとなっていった。1972(昭和47)年に小波瀬臨海工業地帯が完成すると、翌年日産自動車㈱の工場進出が決定、1975(昭和50)年操業を開始した。自動車工業は関連企業の裾野が広く、雇用力や経済的波及効果が高いため石炭鉱業の没落で斜陽化していた九州・山口の経済再生に寄与した。1973(昭和48)年には大洋フェリー㈱と西日本フェリー㈱が苅田港と大阪南港、神戸深江港間で就航し、京阪神の大消費地と12～3時間で結ばれることになったが、昭和50年代の石油ショックと新幹線の博多乗り入れ、中国自動車道の開通などを契機として、旅行・物流の変化の影響を受け、西日本フェリーから営業権を引き継いでいた阪九フェリー㈱が1980(昭和55)年、大洋フェリーが1984(昭和59)年に苅田港から撤退し、苅田港を発着する定期便のフェリーはなくなった。

昭和**50**年代は地方交付税不交付団体としての豊かな財源を背景に、社会資本整備のための大型事業が続き、清掃工場、苅田中学校、南原小学校、馬場小学校、中央公民館、消防庁舎、し尿処理場、勤労体育センター、総合体育館、新津中学校、火葬場、磯浜都市下水路などが次々と建設された。新北九州空港が建設される苅田沖土砂処分場造成工事が着工されたのも1977(昭和52)年である。またこの年、町の人口が3万人を超えた。「かんだ港まつり」「ふれあいマラソン」「環境美化運動」などがこの年代に開始され、苅田町の恒例行事として定着した。

昭和**60**年代はバブル景気を背景とした混迷の時代であった。高度成長した日本が、急速な円高や、バブルに浮かれ、結局、地価や物価の上昇は1990(平成2)年まで続くこととなる。急激な世の中の変化は旧体制の崩壊を意味し、国鉄、専売公社、電信電話公社などが民営化された。苅田町でもマスコミを賑わした一連の「疑惑事件」で混迷の時代が続いた。その教訓を活かして、1989(平成元)年当時としては全国一厳しい政治倫理条例が制定された。

平成に入ると「生涯学習」や「健康」「環境」がまちづくりのキーワードとなり、小波瀬コミュニティーセンター、北公民館、西部公民館、苅田エコプラント、総合保健福祉センター（パンジープラザ）などが相次いで建設された。特に1990(平成2)年開館した図書館は多くの町民に親しまれ、気軽に利用できる施設として高い評価を受け、1992(平成4)年に九州で初の図書館協会建築賞を受賞したほか多くの栄誉に輝いた。1994(平成6)年、新北九州空港建設工事が国の第4次空港整備5ヵ年計画に新規事業として採択されてから実に13年目にして着工された。それに伴い関連の東九州自動車道小倉～苅田間の工事や空港連絡道路、空港ターミナル建設工事が順次着工され、2006(平成18)年の開港に向け建設が進められている。2004(平成16)年12月トヨタ自動車九州㈱が苅田町に進出を決定、調印式を行った。町の将来像が20年ぶりに一新された、2001(平成13)年策定の第3次総合計画基本構想では、新北九州空港開港を受けて、「アジアに輝く美しい風土の創出」をテーマに臨空都市構想を打ち出し、自立したまちづくりをめざしており、さらなるステージへと飛躍する苅田町の未来に、大きな期待が寄せられている。

新生苅田町５０年のあゆみ			国内外の主な出来事
1955(昭和30)年	**1月**	**白川村、小波瀬村、苅田町の１町２村が合併して新生「苅田(かんだ)町」が誕生。** **合併当時苅田町　14,009人　2,930戸　14.9平方㎞** **小波瀬村　4,342　819　10.2** **白川村　2,336　430　13.1** **合計　20,687　4,179　38.2**	昭和の大合併 森永ひ素ミルク事件
1956(昭和31)年	**3月**	**九州電力(株)苅田発電所発電開始(火力75,000kw)ー**我が国最初の再燃式ユニットシステムで、我が国の火力発電技術を世界水準まで引き上げた。	新教育委員会法施行 「もはや戦後ではない」が流行
1957(昭和32)年	**4月**	**木造薬師如来坐像(内尾薬師)、県彫刻に指定。**	大相撲九州場所開幕
	11月	**分町騒動解決ー**行橋市との合併を希望していた旧小波瀬村の片島地区と二崎地区が苅田町との合併後に分町することを求めて独自に非合法村づくりを行い、数回にわたるデモ行進や総決起大会などを繰り返して、「不服従運動」にまで発展した。３年余り続いたこの騒動も、県が提示した４原則をもとに円満解決。	５千円札・100円硬貨発行
1958(昭和33)年	**6月**	**大干ばつー**苅田工業用水断水、６月県下の降雨量はわずか23.9㎜。	関門海底国道トンネル開通 １万円札発行　東京タワー完成
1959(昭和34)年	**3月**	**等覚寺出土銅製経筒、県考古資料に指定。**	メートル法施行
	10月	**国鉄苅田駅と苅田港駅駅名変更、「かりた」「かりたこう」から「かんだ」「かんだこう」へー**1985(明治28)年に私鉄九州鉄道によって開設された苅田(かんだ)駅は1907(明治40)年国の買収によって国鉄苅田駅となった。その後1918(大正７)年豊国セメントができ、駅の名前が有名になると「字の発音どおりでないとわかりにくい」「東京の神田と混同しやすい」などという国鉄側の理由で駅の呼称が「かりた」に変更された。すると駅の呼称だけでなく町名までも「かりた」と誤読されるようになったため、町議会などが陳情を続けた結果、元の「かんだ」に戻ることになった。	伊勢湾台風 皇太子明仁親王御成婚
1960(昭和35)年	**1月**	**番塚古墳、県史跡に指定。**	カラーテレビ本放送開始
	3月	**県営苅田土地区画整理事業完了(375.3ha)ー**1941(昭和16)年より開始された県営３大事業の一つで、軍需工業用地の確保をめざしたが、終戦によって中断、1945(昭和20)年10月再開された。工事完了によって町の新区域が設定され、松原町、若久町、神田町など新しい町名が発足した。	所得倍増高度成長政策発表
	11月	**苅田港県営臨港鉄道石炭輸送開始。**	
	＊	**この年より44年まで地方交付税不交付団体に。**	
1961(昭和36)年	**2月**	**通産省産炭地指定**ー苅田町振興法２条指定。	国民皆年金、拠出制国民年金発足
	4月	**苅田町農業協同組合発足ー**苅田、小波瀬、白川各農協が県下第１号で合併。	
	6月	**西日本共同火力(株)設立ー**電力６社と石炭６社の共同出資によって設立された大容量の低品位炭専焼火力発電所(22万kw)。九州電力と併せて苅田町は日本一の発電センターとなった。1972年九州電力に吸収合併。	
1962(昭和37)年	**1月**	**青龍窟、国の天然記念物に指定。**	若戸大橋開通
	3月	**苅田港石炭埠頭造成完成(21.4ha)。**	キューバ危機
1963(昭和38)年	**4月**	**県立苅田工業高校開校ー**京都行橋総合開発協議会が母体になって苅田工業高校設置期成会が結成され、小畑学園苅田高等学校理事長小畑秀吉氏が県に学校用地、校舎などを提供。県立工業高校(電気科、機械科、工業化学科)が新設された。	北九州市発足 新千円札(伊藤博文)発行
	10月	**西口彰連続殺人事件起こる。**	ケネディ大統領暗殺 新博多駅開業
1964(昭和39)年	**6月**	**麻生産業㈱苅田セメント工場操業開始。**	名神高速道路開通
	9月	**苅田臨海工業用地1号埋立地完成(150.3ha)ー**1942年に着工された県営３大事業の一つ。完成を待たずして九州電力と西日本共同火力の夜間電力を活かしてセメント２社が進出を決定。原料の石灰岩や石炭などの産地にも近く、工場前面に専用岸壁を作り、セメントタンカーで製品を大量輸送できるため。	東海道新幹線開通 東京オリンピック開催
	11月	**宇部興産㈱苅田セメント工場操業開始。**	
1965(昭和40)年	**4月**	**苅田町消防本部発足。**	米軍のベトナム北爆開始
	9月	**町議会に「町道門田～西山線の建設に関する調査特別委員会」設置。**	
1966(昭和41)年	**4月**	**町広報紙「かんだ」を「苅田町政だより」に改称ー**今まで公民館が月１回発行していた広報誌を月２回役場総務課が発行し、町内全家庭配布となった。	日本の総人口１億人突破 中国文化大革命 「おはなはん」「ウルトラマン」
	6月	**県営殿川ダム完成ー**戦前の県営３大事業の一つで苅田臨海工業地帯の工業用水確保のためにダム建設を計画、戦争のため中断していた。その後1960年に貯水量7万tの砂防ダムとして着工したのち、1964年に総貯水量125万tの貯水用ダムに計画変更された。	
	10月	**国鉄日豊本線小倉～新田原間電化開通。**	
1967(昭和42)年	**4月**	**西日本工業大学開校ー**機械工学科と電気工学科の２学科による京築地方初の4年制大学が開校。翌年には土木工学科と建築学科を増設して４学科となった。	新仲哀トンネル開通
1968(昭和43)年	**4月**	**苅田港、国際貿易港に昇格ー**九州で21番目に開港し、県が大型船の接岸に向け、改修を実施。従来門司港で手続きをしてから入港していた船が動植物を除いて直接入港ができるようになった。これに伴い門司税関苅田出張所が開所された。	３億円事件 明治100年 交通違反金・郵便番号制発足
1969(昭和44)年	**4月**	**北九州幼児教員養成所(現北九州保育福祉専門学校)開校ー**京築地方初の附属幼稚園を備えた幼児教育の教員養成機関が開校。	アポロ11号月面着陸 東名高速道路開通
	6月	**苅田港、木材輸入特定港に指定。**	
	10月	**苅田港、出入国港指定。**	
1970(昭和45)年	**12月**	**都市計画法による市街化区域及び市街化調整区域決定。**	よど号ハイジャック事件 日本万国博覧会開催 三島由紀夫割腹自殺
1971(昭和46)年	**1月**	**三原文化会館完成。**	ドルショック
	4月	**消防署救急業務開始。**	
	6月	**役場新庁舎完成ー**合併15周年事業として元町営グランド跡に建設。町役場としては当時規模、内容とともに九州一のデラックス庁舎として話題となった。	
1972(昭和47)年	**3月**	**小波瀬臨海工業用地完成(200.6ha)ー**1892年に出願された大分新開の埋立工事が実に80有余年の歳月を経て完成し、翌年日産自動車の工場誘致が決定。	浅間山荘事件/沖縄返還 冬季五輪札幌大会開催 ウォーターゲート事件発覚
	4月	**門司海上保安部苅田分室開所。** **西日本共同火力㈱、九州電力㈱苅田発電所と合併解散。**	
1973(昭和48)年	**4月**	**苅田山笠、県無形文化財に指定。** **大洋フェリー(苅田港～大阪南港)と西日本フェリー(苅田港～神戸深江港)が就航。**	関門橋開通 円変動為替相場制移行 オイルショック

		日立金属戸畑工場苅田分工場操業開始ー1980年九州工場と改称。**豊国セメント㈱、三菱鉱業㈱・三菱セメント㈱と合併**ー三菱鉱業セメント㈱九州事業所苅田工場となる。	金大中事件
1974(昭和49)年	**1月**	**町議会に「水道事業問題について調査特別委員会」設置。**	北九州市小倉区を南北、
	6月	**港湾審議会で苅田沖土砂処分場計画決定。**	八幡区を東西に分区
	8月	**農林省門司植物防疫所苅田出張所開所。**	
1975(昭和50)年	**4月**	**日産自動車(株)九州工場操業開始。**	山陽新幹線全線開通
	6月	**苅田町歴史資料館完成。**	沖縄国際海洋博開催
	7月	**町議会に「二先山問題調査特別委員会」設置。**	「およげ！たいやきくん」
	＊	**この年より現在に至るまで地方交付税不交付団体に。**	「ベルサイユのばら」
1976(昭和51)年	**7月**	**青龍窟でナウマンゾウの幼獣の化石発見**ー北九州の学生ケイビンググループによって、生後間もないナウマンゾウの頭蓋骨が発見された。	ロッキード献金事件発覚
1977(昭和52)年	**3月**	**日産自動車(株)九州工場生産のダットサントラック、苅田港より海外へ積み出し開始。**	王貞治756号ホームラン
		町の人口3万人突破。	日本赤軍日航機ハイジャック
	4月	**苅田町じん芥焼却場操業開始。**	
	7月	**苅田沖土砂処分場着工**ー関門海峡や新門司、苅田港のしゅんせつで出る土砂を処分するため、苅田沖に幅900m、長さ4,125m、面積153haという巨大な人工島をつくる工事が着工。当初公園緑地用地及び実験用地として計画されたが、のち新門司土砂処分場が併設され、総面積373haという広さとなり、「は～とぽ～と21」と命名された。新北九州空港など空港関連施設が建設される。	
	11月	**県営松山木材埠頭完成。**	
1978(昭和53)年	**5月**	**第１回かんだ港まつり開催。**	新東京国際空港開港
	9月	**国道10号線尾倉踏切にノンストップ信号設置。**	「インベーダーゲーム」
1979(昭和54)年	**3月**	**松山工業用地埋立完成(Ⅰ・Ⅱ区、54.9ha)。**	英サッチャー内閣成立
	4月	**馬場小学校開校**ー南原小学校が周辺部の都市化、日産自動車九州工場の進出による児童数の増加でマンモス化。馬場の元苅田中学校跡地に児童数500人規模の分離校を新設し、校名は町民から募集した。	
	6月	**6.30水害**ー６月26日から７月２日にかけての集中豪雨。総雨量678㎜に達し、広範囲で浸水被害をもたらした。	
	9月	**中央公民館完成。**	
	11月	**消防庁舎移転新築完成。**	
		第１回町民文化祭開催。	
1980(昭和55)年	**3月**	**第２次苅田町総合基本計画策定。**	JOCモスクワ五輪不参加
	4月	**合併25周年を記念して、町民憲章を制定。町の木に「クスノキ」、町の花に「三色スミレ」決定。**	ジョンレノン暗殺
		土地開発公社・今古賀団地完成。	
	5月	**し尿処理場完成・操業開始。(処理能力１日100kℓ)**	
	6月	**苅田町漁業協同組合発足**ー17年来の懸案、浜町漁協と苅田浦漁協が合併。	
1981(昭和56)年	**4月**	**勤労者体育センター完成。**	神戸ポートピア'81開催
	8月	**総合体育館完成。**	福岡市営地下鉄１号線部分開業
	11月	**福祉バス「かんだ号」走行開始。**	
	12月	**運輸省第４次空港整備計画に新北九州空港建設を採択。**	
1982(昭和57)年	**8月**	**日産自動車㈱九州工場、乗用車生産開始**ー1975年のトラック操業開始以来、九州で乗用車生産をという地元産業・経済界の長年の夢が実現。産業形成的にも裾野の広い自動車産業の中でも特に乗用車は付加価値も高く、関連企業の進出、地場産業の需要の増大と地元産業に与える幅広い波及効果が期待された。	ホテルニュージャパン火事
	9月	**火葬場「かんだ苑」完成。**	日航機羽田沖墜落事故
			500円硬貨発行
1983(昭和58)年	**2月**	**第１回町民ふれあいマラソン大会開催。**	東京ディズニーランド開業
	3月	**町議会の議員定数を26から20に改正。**	AIDS発生
	4月	**新津中学校新築移転**ー小波瀬地区の区画整理事業が行われるのに従って新校舎を旧校舎の北側に移転新築し、それまで長峡中学校に通学していた白川地区の中学生59人が同校に転入した。	大韓航空機墜落事件
	6月	**第１回環境美化の日実施。**	
	12月	**県営ほ場整備事業開始。**	
1984(昭和59)年	**5月**	**井ノ口貯水池拡張事業完成。**	グリコ・森永事件始まる
	7月	**京都峠着工**ー白川地区と苅田地区を最短で結ぶ県道工事。合併以来の案件。	九州縦貫自動車道門司～小倉東間開通
	11月	**大洋フェリー㈱さんふらわあ号撤退**ー11年7カ月にわたって苅田港と大阪南港間を就航していた大洋フェリーが撤退。	15年ぶり新札発行(千円・５千円・１万円)
1985(昭和60)年	**1月**	**石塚山古墳、国史跡に指定。**	北九州市都市モノレール開業
	10月	**総合福祉会館開館。**	筑波科学万博開催/NTT・JT発足
			日航ジャンボ機群馬県山中に墜落
1986(昭和61)年	**1月**	**苅田港、無線検疫港に指定。**	ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故
	2月	**苅田臨海工業用地２号地完成。(166ha)**	フィリピン政変アキノ大統領就任
	3月	**高城山・内尾薬師が県森林浴百選に。**	
		核兵器廃絶平和都市を宣言。	
1987(昭和62)年	**3月**	**町議会に「霊園事業並びに文書保管調査特別委員会」設置。**	国鉄分割・民営化ーJR九州発足
	10月	**日産九州野球部、社会人野球日本選手権に初出場。**	
1988(昭和63)年	**3月**	**磯浜都市下水路工事完成**ー国道10号線から東側の埋立地帯磯浜地区の水害防止のため下水路とポンプ場を新設、改良した。	青函トンネル・瀬戸大橋開通
			東京ドーム開業
	4月	**高城山自然道が全面開通**ー1983年度から建設を進めてきた自然道の最後のルートが完成し、高城山の尾根沿いの４本のルートが結ばれた。	リクルート事件発覚
			ダイエーホークス誕生
	9月	**長峡川大橋開通。**	
	10月	**谷遺跡から唐三彩陶枕出土**ー全国でも数少ない陶枕の破片が出土。九州では大宰府政庁跡から出土したものについで２例目。	
平成			
1989(平成元)年	**4月**	**政治倫理条例施行。**	昭和天皇崩御、今上天皇即位
	8月	**小波瀬コミュニティセンター開館。**	ふるさと創生基金
		学校給食センター完成ー県下初めての「完全ドライシステム」を採用、炊き込みご飯やピラフなどバラエティーに富んだ献立ができる「連続炊飯システム」などの最新式設備が導入された。	アジア太平洋博覧会(よかトピア)開催
			消費税実施
			平成筑豊鉄道開業
			中国天安門事件
			ベルリンの壁崩壊
1990(平成2)年	**4月**	**不燃物処理・資源化施設稼働。**	国際花と緑の博覧会開催
	5月	**図書館開館。**	北九州市スペースワールド開設
	12月	**住民基本台帳オンライン稼働。**	とびうめ国体開催
		番塚古墳出土品から「せんじょ(ヒキガエル)」型飾り金具発見。	東西ドイツ統一
1991(平成3)年	**4月**	**苅田町総合基本計画(後期)策定。**	島原雲仙普賢岳噴火
	8月	**国道10号線行橋バイパス開通**ー北九州と大分を結ぶ北大道路(総延長124.3㎞)の一環として計画された与原西日本工大入口	ソビエト消滅・ロシア共和国創立

		～行橋市辻垣間5.4km間が開通。市街地の交通渋滞が緩和された。	
	9月	**台風19号が直撃**ー暴風により送電施設に被害が発生、広範囲に停電があったほか森林の倒木被害、塩風害などに多くの被害が出た。	
1992(平成4)年	2月	**町議会に「不燃物処理資源化施設の疑惑解明のための調査特別委員会」設置。**	東海道新幹線「のぞみ」誕生
	4月	**北公民館開館。** **「苅田町政だより」を「広報かんだ」に改称。**	
	5月	**日産自動車九州工場新工場(夢工場)完成**ー生産能力年間60万台に飛躍的に増大、国内最大級の工場となった。 **等覚寺地区が農林水産省・全国農村景観百選に。**	
	10月	**JR小波瀬駅が「小波瀬西工大前駅」に改称。**	
	11月	**図書館が日本図書館協会建築賞優秀賞を受賞。**	
1993(平成5)年	11月	**町のシンボルマーク、キャッチフレーズ決定**ー町の持つ特性や魅力を掘り起こし、町内外から親しまれる地域イメージを形成していくことを目的にCI導入を開始。「Kをモチーフに人々が仲良く活動的に暮らす様子を表現。波と大きな空、夢と希望にあふれる苅田町をイメージ」した町のシンボルマークと「アメニティー」と「夢」をかけた「ゆめニティータウン」が決定された。	福岡ドーム完成 浩宮皇太子殿下ご成婚 平成の米騒動起こる
1994(平成6)年	3月	**町議会に「住民税不正操作に関する調査特別委員会」設置。**	関西国際空港開港
	4月	**西部公民館開館。**	
	7月	**日産九州野球部、都市対抗初出場でベスト８。**	
	8月	**渇水により18時間断水を16日間実施**ー夏の記録的な猛暑や梅雨時期からの少雨により1960年以来34年ぶりの断水を実施。その結果約9,500世帯、27,000人に影響が出た。この渇水で秋の町民体育祭はじめ苅田山笠などの諸行事が中止になったほか小中学校ではプールの中止や給食もパンを中心とした節水メニューとなり、午前中だけの短縮授業を行った。	
	10月	**新北九州空港建設工事着工。**	
1995(平成7)年	7月	**夏休み学童保育実施。**	阪神・淡路大震災
	8月	**新松山地区整備事業着工**ー新北九州空港建設による企業立地促進などを目的に運輸省第四港湾建設局と福岡県が町内鳥越地区で行う埋立工事。空港と連絡橋の起点ともなる。	地下鉄サリン事件
1996(平成8)年	2月	**苅田町が毎日・地方自治大賞の優秀賞受賞。**	病原性大腸菌O-157 大流行
	11月	**大熊公園多目的グラウンド完成。**	
	12月	**東九州自動車道整備計画区間決定。**	
1997(平成9)年	3月	**県営山口ダム完成。(貯水量80万t)**	消費税５％
	4月	**消費生活相談窓口開設。**	神戸児童連続殺傷事件
	5月	**新北九州空港連絡道路着工。**	香港中国返還
	11月	**等覚寺地区が平成９年度豊かなむらづくり全国表彰事業で九州農政局長賞受賞。**	ダイアナ英元皇太子妃事故死
1998(平成10)年	6月	**東九州自動車道(北九州～行橋間)着工。** **苅田国土利用計画策定。**	冬季オリンピック長野大会開催 明石海峡大橋開通
	10月	**苅田エコプラント㈱固形燃料化施設稼働**ー町出資の第３セクターで、固形燃料(RDF)化施設と粗大ゴミ処理施設からなる新工場が稼動。	和歌山カレー毒物混入事件
	12月	**等覚寺の松会、国の重要無形民俗文化財に指定**ー「豊前修験道」と呼ばれる山岳修験道の古来の姿を留めている点が評価された。	

1999(平成11)年	4月	**苅田町総合保健福祉センター開館**ー町の保健・福祉の中心施設として、町民の身近な憩いの場、生きがい作りの場として活用され、パンジープラザの愛称で親しまれる。	地域振興券配布(１人２万円) 日産自動車とルノー資本提携 ダイエーホークス球団初の日本一
	9月	**台風18号が直撃**ー台風通過と満潮が重なり、河口付近の川があふれ低地で浸水が相次ぎ、特に港湾関係で大きな被害を受けた。 **町議会議員定数20を18に削減。**	
	12月	**「広報かんだ」通算1000号**ー1949(昭和24)年8月町中央公民館の機関紙「かんだ」として創刊されてから51年目。当時はタブロイド版１枚、月１回の不定期発行で有料であった。 **ミレニアム2000カウントダウンイン苅田開催。**	
2000(平成12)年	8月	**日本洞窟学会(カルスト・フェスティバル2000 in KANDA)開催。** **苅田都市計画事業小波瀬土地区画整理事業終結。** **小波瀬土地区画整理区域内の町名・地番を変更。**	コンピューター西暦2000年問題 介護保険制度開始 西鉄バスジャック事件 九州・沖縄サミット開催 ２千円札・新500円硬貨発行
	11月	**苅田港で旧日本軍の化学弾発見。**	
2001(平成13)年	3月	**第３次苅田町総合計画基本計画策定。**	UFJ・ディズニーシー開業
	10月	**東九州自動車道北九州～苅田間8.2km起工式。**	米国９.11同時多発テロ事件発生
2002(平成14)年	4月	**下水道事業第1期工事98ha供用開始**ー京町や富久町の一部から進められていた汚水管埋設工事と公共下水道終末処理場・苅田町浄化センター建設工事が完成、供用開始となった。	サッカーワールドカップ日韓で開催 北朝鮮日本人拉致事件被害者帰国
	5月	**㈱ピュアタウン苅田設立**ー商業の活性化に取り組むため町、商工会議所、商店街によって設立された第３セクター。	
	7月	**2002三陟世界洞窟博覧会に苅田町が参加**ー町の紹介パネル、広谷湿原の写真などを特設ブースに展示。韓国のみならず世界中から訪れた観光客に苅田町をPR。	
2003(平成15)年	4月	**北九州リハビリテーション学院開校。**	日本郵政公社発足 新型肺炎SARS大流行
2004(平成16)年	10月	**苅田港の毒ガス弾無害化作業開始**ー防衛庁が港北側に設けられた専用施設で爆破と高温燃焼による処理を開始。 **新北九州空港旅客ターミナルビル着工。**	小倉伊勢丹開業 しずおか国際園芸博覧会浜名湖花博開催
	11月	**「第19回国民文化祭ふくおか2004」苅田町で連句の大会開催。**	シアトルマリナーズイチローメジャー年間最多安打記録262安打達成
	12月	**トヨタ自動車九州㈱のエンジン工場、松山工業用地へ進出決定**ー福岡県・苅田町と立地協定に調印。 **日産自動車九州工場、車両累計生産台数1000万台達成。**	台風23号・新潟県中越地震 20年ぶりに新札発行(１万円・５千円・千円札)

軌跡

かんだの歴史

概要版
DIGEST

苅田町合併50周年記念誌

2005年1月16日発行
発行　苅　田　町
印刷　（株）ぎょうせい